近隣の団体とのネットワークづくり

西-9　開崎　美弥・町家日本語教室

課題の背景

私自身が、運営を続けていく中で他団体と比べて活動期間が短く新参者であり孤独であった。
他団体同士でも顔が見えないまま、存在だけがお互いに知っている状態であり、これから増え続ける外国人住民を支援する側が県内の繋がりがないままでいいのかと疑問に感じ課題を設定した

実践の内容

各団体が、どのような思いでおこなっているのか？今まで続けてこられた理由・これからも続けていく理由や困難や課題について知りたいと最初に考え以下の実践と共通アンケートを用意し、代表者と面談をした

2023.9	奈良県ホームページに記載されている県内の日本語教室を調べる 県内が 5 つのエリアに分かれている事実を知る 近隣の団体に連絡を取る
2023.10	五條市日本語教室運営代表者と ZOOM で顔合わせ
2023.11	北葛城郡王寺町日本語教室代表と顔合わせ
2023.12	香芝市日本語教室代表者と顔合わせ
2024.　1	近況の情報集め

アンケートは訪問時や ZOOM で頂いた。

実践を通して「行ったこと」

・10 月から 12 月にかけて各代表者と面談の時間を設けた
・以下共通アンケートを実施した

<アンケート内容>
①日本語教室ができた経緯

②市町村の関係性は？（EX：補助金があるのか？
③学習者の募集方法
④ボランティアの募集方法・参加者の層
⑤問題点

「考えたこと」

・日本語教育推進法が成立されてからは、場所の確保に困らなくなりつつある
　と回答頂いた
　しかし、前進していると実感したが、予算などはつきにくくまだまだ捉え方の違いが
　あり別の市町村のやり方などを提案し納得・必要性の説得が益々必要になると考えた
・各団体の代表者は横のつながりを求めていた。これからは、体制作りとつながり
　が必要と考えた

・主に任意団体の聞き取りを実施したが、代表者の負担は大きく次世代に同じやり方を
　引き継ぐとなると負担が大きく別の方法を考える必要がある

地域日本語教育コーディネーターとしての果たした役割

・お互いの顔が分かったことで他の団体から当団体で受け入れの相談連絡がきたこと
・年末年始を挟んだ時期だったので新年のあいさつを送るきっかけができ、その結果
　五條市の現在の教室様子の報告を受けた

地域日本語教育コーディネーターとして自身が大切にしたい視点

・時代の流れにあったものを提案し、ボランティア支援者が続けやすく潜在資格者も
　活躍できる場を作り上げたい

実践において、難しいとかんじたこと、今後に向け知りたいこと

・ボランティア任せの動きが多いので、任意団体の限界を迎えるのではないか？
　と危惧した。
　各団体の代表者・市町村・県と共有しあいながら進まなければいけない
・各団体が抱えていいた技能実習生の職場の悩みは中々踏み込めないのが難しい
　相談先をすぐに対応できるように他県での取り組みなどを知りたい